

# 献呈のことば

学長 谷岡 一 郎

本号は、今期で一応の区切りを迎える、南方建明先生を記念するものです。

もう私が紹介するまでもなく、南方先生は皆さんがよくご存知でしょう。平成9年より商経学部助教授として、「商品学」や「マーケティングチャネル論」などを教えることからスタートし、その後平成17年に総合経営学部教授となりました。

翌18年には商学科主任（平成20年3月まで）、平成21年にはリエゾンセンター長（平成29年3月まで）および総合経営学部長を兼任（平成27年3月まで）、そして平成23年には副学長（平成29年3月まで）にご就任いただきました。その間（その後）も谷岡学園評議員や大学院の地域政策学研究科長をお務めいただき、現在もご活躍中です。

多くの学会—日本経営学会、日本ベンチャー学会、日本商学会、日本流通学会、日本経営診断学会など—に所属し、各学会で中心的な役割を担い、さまざまな賞も受けておられます。たとえば、中小企業診断研究会最優秀論文、中小企業庁長官賞、日本経営診断学会学会賞など、2ケタに及ぶ受賞歴がありますが、南方先生なら別に驚くことはないと思います。それほどこの世界で有名だからです。

著書が2ケタ、学術論文はほぼ3ケタに到達しようかという業績は多岐にわたっていますが、特に中小企業、小売業、マーケティング、流通システム、ベンチャーなどの著作が多いようです。

皆さんも同じだと思いますが、南方先生を思い浮かべると、その顔は笑っていることがほとんどでしょう。温厚で明るい性格は、我々同僚や職員は言うに及ばず、面倒見がよいこともあって学生らにも人気のある先生です。

これからは少しばかり自由な時間が増える(?)かと思いますが、どうせ南方先生のこと、休めと言っても休まんでしょな。これからも新しいトピックも含めて、著作や研究に忙しい日々を送るはずです。お互いもう（物理的には）若くはない年齢ですので、体と健康に気をつけましょう。つい無理をしてしまうのは私も自戒する点です。

一応の区切りとしての退官ではありますが、力の及ぶ限り新しい知見を世に送り続けるのが、研究者の宿命ですからたぶん引退はないでしょう。これからも若手研究者の良きお手本として、いろいろなことにチャレンジを続けてください。

まずは退任、おめでとうございます。これまでありがとうございます、そしてこれからもどうぞ宜しく。